

栃木の明るい未来に向けて



日韓知事会議で発言する福田知事＝11月1日、静岡県富士河口湖町

初心

2024年新春号

令和6年1月発行
年2回刊

題字/福田富一 書

<発行所>

福田富一
暮らしと政治研究所

〒320-0026
宇都宮市馬場通り2丁目1番12号
TEL 028 (633) 1111
<http://www.tomikazu.com>

「政治生活40年を迎えて！」

栃木県知事 福田富一

《政治の世界へ》

昭和56年4月、27歳で9年間勤務した栃木県庁を退職し、2年後の宇都宮市議選に立候補すべく活動を開始した。2級建築士事務所と行政書士事務所を開設し2足の草鞋の生活が始まった。仕事が終わらず新聞を敷いて事務所で寝ながら、寂しさを紛らわすため栃木放送にリクエストをし何度か曲とともに私の紹介もしてもらった。

《政治家を目指す男に娘はやれない》

そんな中、県庁時代の上司の計らいで妻とお見合いした。義父(平成26年1月に他界)は当時「政治家を目指す男に娘はやれない」と反対したが、妻は「選挙は良く判らないが一緒にやってみよう」と言ってくれた。12回の選挙を一緒に戦ってくれた(11勝1敗)。一番の理解者であり、最も身近で頼りになる戦友となった。

《正気か！ 脳内検査を受けてこい》

私にとって妻に次いで重要な戦友は父である。42年前にふるさと(旧今市市・合併して日光市)を離れて宇都宮から選挙に出たいと言ったときには猛反対し、最後にかかれた言葉は「今のおまえには脳内検査が必要だ」だった。選挙のたびに「候補者の父」として歩いてくれた。特に知事選では県内各地でお世話になり「福田富一という候補者は知らないが父さんに会い話を聞けたので応援するよ」と言ってくれた多くの方々の存在も後で知った。その父は間もなく93歳にな

る。目は合わせるが会話は成り立たなくなっていました。

《LRTⅡ エル・アール・テー》

宇都宮市長に就任し2、3年目の頃、「エル・アール・テー」ちゅうのはやめた方がいい。それさえやめれば市長は続けられる」と母が注意してくれました。実家を訪ねてくる方々から言われたことを伝えるのだなと思ったが、私は何も答えなかった。

昨年LRTⅡライトラインは走り出した。開業後間もなく、見ることも乗ることもなく黄泉の国に旅立った。多くの皆様にお心遣いを賜り御礼申し上げます。

《任期4年目の公約達成状況》

5期目の選挙では「とちぎの挑戦2020」の名のもとに75項目の政策を掲げた。外国の先端企業等の誘致の項目だけが検討中だった。新年度は国内外の半導体・蓄電池関連企業の誘致に向けたマーケティング調査を行う。等具体的誘致対策に移行することとなった。

《少子化対策》

合計特殊出生率が3年連続で過去最低を更新するなど、深刻さを増す少子化に対応するため、昨年8月に第1弾の「とちぎ少子化対策緊急プロジェクト」を推進して来たが、新年度は第2弾へと進む。縁結びムーブメント創出で若者の結婚への願望を叶えたい。第2子保育料免除事業も市町と一体となって事業を開始し、子育て世帯の負担の軽減にもつながりたい。

とちぎの男性は家事・育児に取り組む時間が、茨城・群馬両県と比較しても少ない。家庭における女性の負担の軽減にもつながるとちぎの男性育休応援も強化する。

《人生100年時代の健康づくり》

県民一人ひとりが生涯にわたりのいきいきと暮らしていただけるようフレイル予防対策も強化する。「転ばぬ先の衰え」で予防対策に加齢性難聴に関する普及啓発も行う。

フレイル予防の3本柱(栄養+口腔機能+運動・社会参加)をもとに、自分の心身の健康状態を継続してセルフチェックし必要な取り組みを、定年退職を迎える前期高齢者(65歳以上)等を対象に、実践できる環境を整える。加えて、失語症や高次脳機能障害等においても社会参加がかなうよう普及啓発や取り組みの支援も行つて参りたい。

《義理と人情》

大臣経験者の叙勲祝賀会に駆けつけてくれた元衆議院議長は「この頃の政治家は義理と人情が薄い人が多い。物事を形にしていくなは知識は当然必要だが、それだけでは良い仕事はできない。人情があつてこそだ」と祝辞で述べた。電子機器を活用して効率的な後援会活動や選挙運動を行う人は益々増えることと思う。しかしそれは補助的なものであり、全てであつてはならない。政治は「魂」と「魂」をぶつけ合うことから生まれる社会課題を解決することにあると思う。易きに流れやすい世の中にあつて「事の真髄」をこれからも訴えていきたい。

平等負担へ県が制定

誰もが輝く栃木へ

家事や育児の負担が女性だけに偏らないようにしようと県は10月24日、「いい夫婦の日」の11月22日を、独自に「とも家事の日」に制定すると発表した。これに併せてその前後1週間、15～29日を「とも家事推進ウィーク」として、夫婦や家族が一緒に食事や育児に関わるよう呼び掛ける。とも家事は「みんなで家事をシェアすること」を意味し、時短食材の利用、家事代行サービスの活用も含まれる。「とちぎ少子化対策緊急プロジェクト」の一環として展開していく。

福田知事は24日の定例記者会見で、県内の共働き率が全国平均より高く、妻の家事時間は夫の9倍以上という男女間の格差に触れ「男女が協力して家事や育児をする環境づくりは、女性活躍促進だけでなく少子化対策にもつながる」と述べた。家事とシカを絡めた推進キャラクター「ともジカ」も発表した。

とも家事推進ウィーク期間中は県と市町が連携して普及啓発に取り組むほか、県が連携協定を結ぶ家電量販店「コジマ」やスーパー「ヨークベニマル」などで家事時間削減につながる一部商品が割引価格で販売される。とも家事の実践例やアイデアを共有するコンテストも予定している。

11月22日「とも家事の日」

みんなでシェア推進へ

とちぎ少子化対策緊急プロジェクト

深刻化する少子化を受け県は8月8日「とちぎ少子化対策緊急プロジェクト」を発表。23年度中に、とちぎ結婚支援センターへの登録促進や未婚者の家事力アップ事業などを行い、交際から結婚に進展するよう後押しする。産後ケア利用者負担の軽減や、公営住宅への子育て世帯の優先入居、男性の育児取得促進策などを展開していく。

24年度には安定的な周産期医療体制の確保に向けた産科医の確保や、企業と連携した子育て世帯への支援強化なども推進する。「対策は急務。結婚から出産、子育てまで切れ目のない支援をより積極的に行っていく」と福田知事。



「とちぎの魅力発信レセプション」で栃木県のPRをする福田知事。シンガポール

シンガポールとベトナムを訪問

福田知事はインバウンド（訪日客）誘客や県内農産物の販路拡大のため11月16日から21日の日程でシンガポールとベトナムを訪問した。訪問はベトナムが2年連続3度目、シンガポールは2014年以来2度目。訪問団は福田知事のほか、県議や県職員、企業関係者ら45人で、「とちぎの魅力発信事業」を実施した。

9年ぶりのシンガポールでは日系企業の支援機関を訪問。県産ナシやコメ、和牛のバイヤーと商談した。更に、県酒造組合と連携して日本酒

試飲商談会を開いた。

中心部のホテルでは同国政府や企業の関係者ら約80人を招いて「とちぎの魅力発信レセプション」を開き、とちぎ和牛のステーキやイチゴのちあひかななどを提供した。ベトナムでは、チャン・ルウ・クアン副首相ら政府高官に県産イチゴの輸出実現への協力を求め、県内企業の経済活動が同国で円滑に進むよう計画投資省と新たな覚書を締結した。ハノイ工科大などでは高度外国人材の受け入れ促進などを訴えた。

また、現地旅行会社などへの観光情報説明会では「花の名所や温泉に興味を持った」「栃木と近隣県を組み合わせた周遊ツアーをつくりたい」といった声が上がったという。ベトナムへの県産を含む国産イチゴの輸出は検疫条件が未設定で実現していない。福田知事は帰国後の定例記者会見で、日本とベトナムの政府間協議を見守りたいとしつつ、「農林水産省にもこの問題を訴え、1、2年後には窓口を開けてもらえれば」と意欲を込めた。また「成果を一過性とせず、世界から選ばれる栃木の実現に取り組む」と述べた。

本県立地優位性PR

大阪で立地企業セミナー

11月8日、大阪市内のホテルで「とちぎ企業立地・魅力発信セミナーin大阪」を開催。福田知事が本県

の魅力や優位性をPRした。関西に拠点を置く製造業や建設業など51社84人が参加。福田知事は東京圏などからの良好な交通アクセスや自然災害の少ない点など本県での企業立地の利点をアピール。7月にスタートした若者の技能習得から就職までを一貫して支援する「とちぎ職業人材カレッジ」など県の人材育成事業も紹介。「ぜひ、県を投資先に選んで頂きたい」と呼びかけた。



本県での企業立地の利点をアピールする福田知事＝8日午後、大阪市内

地域課題で意見交換

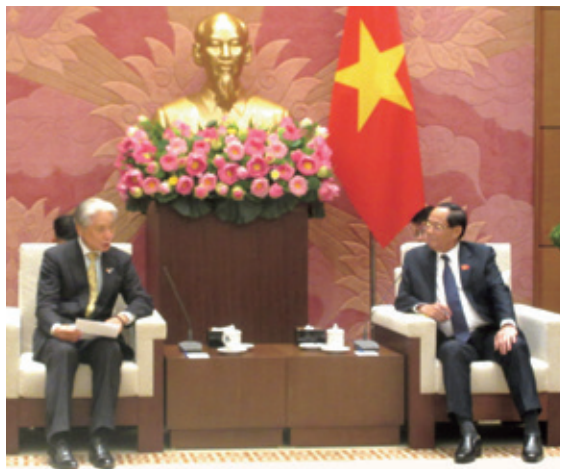
とちぎ元気フォーラムin益子

福田知事が県民と直接対話する「知事と語ろう！元気フォーラムin益子」が9月16日、益子町益子の中央公民館で、町民ら約50人が参加して地域の課題について意見交換した。

福田知事は消防団の加入促進のために「高校で消防団員が参加する実践的な防災教育を実施している」と説明。大阪センターを活用した観光振興については「栃木に来てもらえるよう積極的に関西方面でもキャンペーンをやっていく」と述べた。



このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていただきました。



ベトナムのチャン・クアン・フオン国会副議長（右）と会談する福田知事。ベトナム

地域の脱炭素へ要望 政府主催全国知事会議



岸田文雄首相は11月13日、2023年度補正予算案に計上した自治体向け交付金などを活用し、地域の実情に応じた物価高対策や経済活性化に取り組みよう各都道府県に要請した。官邸で開いた政府主催の全国知事会議で「補正予算案の早期成立を図り、一刻も早く国民に届けることが何より重要だ」と述べた。

知事会長の村井嘉浩宮城県知事は「対策の効果を届けられるよう準備する」と応じた。また経済対策として所得税を減税するのに伴い、所得税を原資とする地方交付税が減るとして、穴埋めを求めた。首相は「地方の財政運営に支障が生じない

よう、年末に向けて関係省庁で協議し適切に対応する」と述べた。

全国知事会議の脱炭素・地球温暖化対策本部長を務める福田知事は、地域の脱炭素移行加速化に向け、交付金などの財政措置や事業期間延長、要件緩和といった支援を求め「各種制約により脱炭素化が思うように進まず、国がサイドブレーキを引いているという声もある」と指摘した。

災害死者名公表の指針を 関東地方知事会議

東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県、静岡県、長野県の10都県で構成する

関東地方知事会議（会長・阿部守一長野県知事）が10月25日、長野県軽井沢町で会合を開き、災害による死者の氏名公表について、統一的なルールづくりを国に検討するよう求める方針を決めた。またより次第、要望書を提出する。国は3月、災害時の安否不明者の氏名に関し、速やかな救助活動のため家族の同意がなくても原則公表するとの指針を発表したが死者の氏名は対象外で、判断は自治体に委ねられている。

福田知事は文化財の保存活用に対する国庫補助の対象拡充などを要望。「一致結束しながら地方創生に取り組んでいく」とした。



右2人目から左へ、長崎幸太郎山梨県知事、熊谷俊人千葉県知事、福田富一栃木県知事、阿部守一長野県知事、大井川和彦茨城県知事、大野元裕埼玉県知事、黒岩祐治神奈川県知事、川勝平太静岡県知事、両端は、東京都・群馬県知事代理＝10月25日、長野県軽井沢町

各競技での健闘を誓い、氣勢を上げる本県選手団と福田知事（中央）＝10月7日、鹿児島市の鹿児島県県立総合運動場



東奔西走の日々

- ◇7月5日 栃木・小山・両毛地区プロック別市町村長会議／GIGAスクール構想整備事業継続に「財政措置が必要不可欠。国と連携していく」。
- ◇7月7日 ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア大使知事を表敬訪問／経済や観光等の交流で意見交換する。
- ◇7月14日 とちぎ職業人材カレッジ事業開始／「若者のニーズに沿った的確な支援を行いたい」と知事。
- ◇7月26日 山梨で全国知事会議／G7日光声明を紹介し財源確保と支援を要望。
- ◇8月19日 とちぎ元気フォーラムin那須／女性の転出減へ「環境整備が必要」。
- ◇8月26日 LRT（次世代型路面電車）運行開始／「本県の地域課題を解決するけん引役として期待する」と祝辞を述べる。
- ◇8月23日 管理型産業廃棄物最終処分場「エコグリーンとちぎ」が完成し式典／「安心安全で信頼され、未来に誇れる処分場にしたい」と知事。
- ◇9月1日 インドのシビ・ジョージ駐日大使知事を表敬訪問／今後の日印交流について意見を交わす。
- ◇9月3日 那須塩原市で県と市による総合防災訓練／「自然災害が頻発、激甚化している。十分な備えが必要」。
- ◇10月7日 かごしま国体／「栃木の横綱相撲を見せてほしい」と現地で選手団を激励する（上記写真）。
- ◇10月12日 都内で4年ぶりに県産銘柄牛PR／「皆さまの力をお借りしながらもり立てていきたい」と知事。
- ◇11月1日 山梨県で日韓知事会議／男性の育休促進策を説明する。
- ◇11月9日 国と都道府県によるオンラインでの感染症対応訓練に参加。
- ◇11月10日 スポーツ庁の優良自治体表彰に選出され都内での表彰式に出席／「スポーツとどう関わるか考えてもらうきっかけになれば」と知事。
- ◇11月24日 全国知事会の脱炭素・地球温暖化対策本部長として各省庁に提言書／「地域の脱炭素加速を」。
- ◇12月19日 サンデー・ダビラニカラ駐日大使が表敬訪問し意見交換。
- ◇12月22日 国交省を訪問／堂故国交副大臣らに道路整備を要望する。

県スポーツ功労賞を授与

真田卓選手

鏡優翔選手

9月に行われたテニス全米オープン車いすの部男子ダブルスで初優勝を果たした那須塩原市出身の真田卓選手（38）（凸版印刷）に、12月12日、知事特別表彰の県スポーツ功労賞を授与した。真田選手は同大会の決勝戦をステファン・ウデ選手（仏）とのペアで初勝利し、四大大会初制覇を成し遂げた。「プロ13年で一番いいキャリアになった」と真田選手。

福田知事は「さらに優勝の数を増やし、夢や希望を与えてほしい」と激励した。

9月にセルビアで行われたレスリング世界選手権女子76kg級で初優勝し、2024年のパリ五輪日本代表に内定した宇都宮市出身の鏡優翔（ゆうか）選手（22）（東洋大学）に、12月18日、県知事特別表彰（県スポーツ功労賞）が授与された。

鏡選手は「パリ五輪では、最重量級で日本人初の金メダルを獲得できるように頑張りたい」と決意を表明。福田知事は「けがなどなく活躍を。五輪の金メダルを下げてください」と激励した。



福田知事から県スポーツ功労賞を授与された真田選手（左）＝12日午前、県庁



福田知事から県スポーツ功労賞を授与された鏡選手（左）＝18日午後、県庁

経済・人的交流を促進

フアム・ミン・チン越首相と会談

福田知事は12月17日、都内で、来日中のベトナムのフアム・ミン・チン首相と会談し、本県と同国との経済・人材交流を促進していくことを確認した。会談でチン首相は「デジタルトランスフォーメーション



チン首相（右）へイチゴを手渡す福田知事＝17日、東京都千代田区

が輸出できないため、福田知事は検査条件について「政府間協議になったら、早期の条件設定をお願いします」と要望した。

福田知事は11月のシンガポールとベトナム訪問の際、同国では計画投資省を訪れ「経済交流に関する覚書」を結んだ。

今年の漢字は「果(か)」

福田知事は12月26日、年内最後の定例記者会見で、この1年を表す漢字に「果」を選んだ。理由を「役割を果たし、成果や結果を残すことができ

4年ぶりに後援会行事再開

「戦場ヶ原ハイキング」

10月29日(日)、38名の参加者は大型バス2台に分乗し、奥日光の戦場ヶ原ハイキングに出発した。天候が心配されたが現地は晴天で湯元温泉駐車場までバスを降り、湯の湖から出発。アップダウンがほとんどない湖畔を半周し、湯滝



1号車の皆さんと



2号車の皆さんと

「知事と語る会」

12月12日(火)「知事と語る会」がコンセーレを会場に60余名の参加を得て開催された。



知事からは県内初開催のG7・男女共同参画・女性活躍担当大臣会合の内容や栃木県誕生150年を記念した様々な取り組み、8月26日に開業したLRTの利用状況、11月に訪問したベトナム・シンガポールでのトップセールスなどについて報告があった。質疑応答では政治家を志した理由などについて中学生から質問が出るなど、知事との距離の近さを感じられる「語る会」となった。

『福田家の茶の間』

元日に家族とカンセキスタジアムから富士山を眺め、気持ち新たに数時間後、大きな揺れを感じた。能登半島地震が起きた。被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復旧・復興とともに、一日も早く平穏な日常が戻りますようお願い申し上げます。



昨年10月、夫の母が急逝した。89歳だった。突然のことでも戸惑いながらも、組内の皆さんや親戚の協力を得て、お通夜、葬儀・告別式を執り行うことができた。

当日はご多忙の中多くの皆様にご弔問頂き、弔電やお供物等を賜りましたこと改めて御礼申し上げます。

12月には親戚を招いて四十九日の法要を執り行い母の思い出を語り合った。この日は私の誕生日で嫁たちが「お誕生日おめでとうございませう」と囁いてくれた。複雑な思いが交錯する一日となった。

編集後記

昨年は栃木県誕生150年を記念して様々な催しが行われた。11月にはシンガポール・ベトナムを訪問した。県外・国外への本県の魅力発信を積極的に行い、各国の駐日大使も福田知事を表敬訪問した。

また、4年ぶりに後援会行事が再開され、「ハイキング」や「知事と語る会」が開催された。

知事の残り任期が1年を切った中でも、福田知事は全力で県政の課題解決に邁進している。そんな福田知事の県政への取り組みや日々の出来事などを纏めました。どうぞ一読下さい。

◇福田富後援会総連合会事務所
◇福田富一暮らしと政治研究所
宇都宮市馬場通り2-11-12
電話 028(6333)1111
FAX 028(6333)1110